

自ら学習を発展させ、探求する生徒の育成 ～学習の個性化を実現する授業づくりを通して～

名古屋市立供米田中学校 秋田 智昭

1 研究のねらい

中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説には、「生徒が、自ら問題を設定し、その解決のために新しい概念や原理・法則を見いだすことで、概念や原理・総則に支えられた知識及び技能を習得したり、思考・判断・表現力等を身に付けたり、統合的・発展的に考えて深い学びを実現することが可能」、「数学の学習では、『数学的な見方・考え方』を働かせながら、知識及び技能を習得したり、習得した知識及び技能を活用して探究したりすることにより、生きて働く知識となり、技能の習熟・熟達につながるとともに、より広い領域や複雑な事象の問題を解決するための思考力・判断力・表現力等や、自らの学びを振り返って次の学びに向かおうとする力などが育成され、このような学習を通じて、『数学的な見方・考え方』が更に確かで豊かなものとなっていく」とあり、生徒が自ら問題を設定したり、探求したりする学習の重要性が説明されている。さらに、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進することが求められる」とあり、従来型の一斉画一授業からの授業改善を推進することが私たちには求められている。

さらに、令和 3 年 1 月 26 日中央教育審議会「令和の日本型学校教育の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」で、「学校における授業づくりに当たっては、『個別最適な学び』の成果を『協働的な学び』に生かし、更にその成果を『個別最適な学び』に還元するなど、ICT 等も活用しつつ、『個別最適な学び』と『協働的な学び』を一体的に充実し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげていく」、「『個別最適な学び』が孤立した学びに陥らないよう、『協働的な学び』を充実することが重要」と説明され、今後の授業改善に向けた授業づくりの方向性が示された。

答申における説明	
『個別最適な学び』	「指導の個別化」と「学習の個性化」を教師視点、学習者視点から整理した概念
「指導の個別化」	子供一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行い、学習内容の確実な定着を図る。
「学習の個性化」	子供の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ、探究において課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現を行う等、子供自身が学習が最適となるよう調整し、学習を深め、広げる。
『協働的な学び』	探究的な学習や体験活動などを通じ、多様な他者と協働しながら、必要な資質・能力を育成する

加古（2022）は、「『学習の個性化』とは、一人ひとりの興味・関心に合わせて、自ら学習を発展させ、探求していく学び」としており、自ら学習を発展させ、探求することの重要性を説いている。また、「『個別最適な学び』は、1人で学習しなければならないものではなく、いつでもまわりの人たちと一緒に学習できるという安心な環境がなければ実現できない。」とされており、「『協働的な学び』ができる環境が前提となって『個別最適な学び』が成立する。」と、『協働的な学び』の重要性も説いている。

<本校の生徒の実態>

私は、研究テーマを決めるにあたりアンケートを実施した。結果は以下のようであった。

質問の観点	質問内容	当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
指導の個別化	自身の学習の進み具合や理解度に応じて、学習内容や難易度を選ぶという。*	67人(54%)	41人(33%)	12人(10%)	3人(2%)
学習の個性化	問題解決した後に、発展問題を作るなど、さらに発展させて考えようとしている。	18人(15%)	37人(30%)	57人(46%)	11人(9%)
学習の個性化	急に自身で何を探求するか考えて取り組みましようと言われると困る。	56人(46%)	37人(30%)	24人(20%)	6人(5%)
学習の個性化	どのようにすることが探求することか理解できている。	13人(11%)	42人(34%)	50人(41%)	18人(15%)
協働的な学び	誰とも協力して学び合いを行うことができている。	52人(42%)	47人(38%)	16人(13%)	8人(7%)

- 「指導の個別化」の観点では、自身の学習進度、理解度等に応じ、自身の学習を調整し、学習内容の定着取り組む意識は比較的高い。
- 『協働的な学習』（本校では「学び合い活動」と呼称）の観点では、他者と協働しながら学習を進めようとする意識が比較的高い。本校は「学び合い活動」を学校努力点に掲げ全校体制で取り組み始め 7 年目であり、これまでの取り組みの成果が表れていると考えられた。
- 「学習の個性化」の観点では、新たな問題を自ら設定するなど学習を発展させる意識が低い。
- 「学習の個性化」の観点では、どのように探求すればよいか分からない生徒が多く、自身で探求を進めることができない生徒が多い。

以上のことから私は、「学習の個性化」を実現する授業づくりを通して、次のような、自ら学習を発展させ、探求する生徒の育成を目指すことを研究のテーマとすることとした。

自ら学習を発展させ、探求する生徒の例
○ 数や個数、場面、条件などを変えて発展問題を作ることができる。（新たな問題を設定する生徒）
○ 発展問題で、きまりを見付けたり、今までの学習とつながりや相違点を考えたり、できるようになったことやこれから使えそうなことを考え、見通しを立てることができる。（知識・技能を活用し学びを進める生徒）
◎ 発展問題の解決に留まらず、「さらにここを変えたらどうなるか」、「どうしてそうなるか」など学習過程を振り返り、気になったことやさらに考えてみたいことを調べその先を探究しようとする生徒。（自ら学習を発展させ、探究する生徒）

2 研究の内容

(1) 研究の手立て

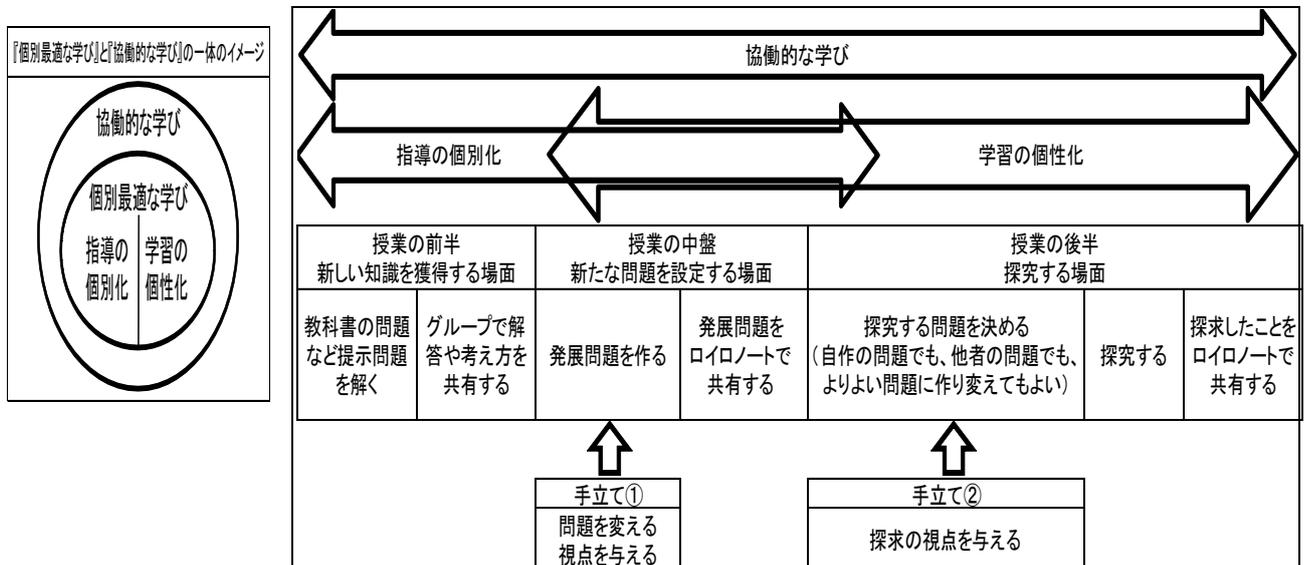
手立て① 新たな問題を設定する場面において、「問題作りの視点」を与える。
 どのように問いを立てればよいか分からない生徒でも、発展問題の作成に取り組むことができるように「問題作りの視点」を与える。

問題作りの視点
・数を変える
・個数を変える
・視点を変える
・場面を変える
・条件を変える

手立て② 探求する場面において、「探究の視点」を与える。
 探究と言われてもどうしてもよいか分からない生徒でも探究が始められるように「探究の視点」を与える。既習事項を使って新しい概念や法則を見付けたり、学習のつながりを意識したりできるような視点を与えることで、「数学の学習は前の学習を使えばできる」、「今の学習は他の課題にも使えそうだな」など、学習過程を振り返り、次の課題に対して、見通しをもって探究する姿勢を育みたい。

探究の視点
・きまりを見付ける
・今までの学習とつなげる
・今回使った大事な見方・考え方や知識は何か
・今回を通してできるようになったことは何か
・これから使えそうなことは何か

(2) 授業づくりのイメージと手立てのイメージ



(3) 検証方法

手立て① 自ら学習を発展させる場面において、「問題作りの視点」を与えることで、自ら問題を発展させることができた、生徒のワークシートやロイロノートの記述から検証する。

数や個数、場面、条件などを変えて自ら発展問題を作ることができた。	○
自ら発展問題を作ることができなかった。	△

手立て② 探求する場面において、「探究の視点」を与えることで、探究することができたか、生徒のワークシートやロイロノートの記述から検証する。

発展問題できまりを見付けるなど探究した後に、さらにその先の発展を考え探究することができた。	◎
発展問題で、きまりを見付けたり、今までの学習とつながりや相違点を考えたり、できるようになったことやこれから使えそうなことを考えることができた。	○
発展問題できまりを見付けたり、今までの学習とつながりを考えたり、できるようになったことやこれから使えそうなことを考えたりすることができなかった。	△

4 実践計画

- (1) 第1次実践 中学校3年生「平方根」
- (2) 第2次実践 中学校3年生「二次方程式」

〔参考文献〕

- ・中学校学習指導要領（平成29年告示）解説
- ・令和3年1月26日中央教育審議会「令和の日本型学校教育の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協動的な学びの実現～（答申）」
- ・加古希支男（2022）『「個別最適な学び」を実現する算数授業のつくり方』